

国際交流センター

NEWSLETTER

Sep. 2016 Vol.44

交換留学生の声

海外協定校への交換留学を終え帰国した学生達の声を集めました。あなたも交換留学してみませんか？

***報告書の文章を一部抜粋して掲載しています。

「自分で仕事を作れる人になれ」という教え

仲間 明子 文学部人文社会学科 4回生
留学先：インドネシア共和国
ガジャマダ大学

私は2015年8月から1年間、インドネシア共和国ガジャマダ大学へ留学しました。まず初めに、なぜ私が東南アジアの国、インドネシアへ留学することにしたのかをお伝えします。私は以前から国際交流や国際協力に関心があり、日本国内で活動をする中で特にアジア地域に興味を抱いていました。留学の1年前の夏に初めてインドネシアを訪れた際に出会った人々がとても親しみやすく、食文化や自然に魅了されました。また、多くのインドネシア人がイスラム教徒であったことからイスラム教について知ることができればという思いもありました。ガジャマダ大学はインドネシア最古の大学です。国内外からの約5万人の学生が学び、有名な教授が講演に来られます。学生たちは向上心が高く、社会課題について、将来について多くの議論をしました。ここで出来た友人はかけがえのない、一生の友人になりました。

また、ガジャマダ大学には「自分で仕事を作れる人になれ」という教えがあります。大企業に入ることを第一とするのではなく、新しい雇用を生み出せるような人になることが世界第4位の人口を抱えるインドネシアの次世代を牽引するリーダーたちへの期待ということで、大変共感しました。国内トップレベルの大学だけあり、留学生は世界各国から来ています。その世界中から集まる学生と共に学ぶことができたのも大きな収穫の一つです。

勉強面では、課題はグループで取り組み、課題発見から解決策提案までを学生に求められるものが多くありました。教材は国連レポートや現地で行われる活動など多岐に渡りました。現地で学んだインドネシア語でディスカッションに参加したり、日本とインドネシアの関係について話すことができたのはとても良い経験となりました。私は社会学とインドネシア語を主に学びました。また、インドネシアの女性の社会活動参加の変化について実際にインタビュー調査も行うことができました。

インドネシアの人々には、急激に発展する中でも、“今を生きる”、“足るを知る”というような気質があります。外から来た人を明るく受け入れ、もてなす文化を持っています。もちろん、初めは外国人がいることに慣れていない人、観光客として扱う人など様々です。この壁はインドネシア語の習得によって超えられたのではないかと思います。課外活動では、学生による農業や観光案内の活動に参加しました。



帰国してから早くも3ヶ月が過ぎました。日本での生活に戻ってから気づいたのは、1年間の生活でついた自信と度胸です。これは留学による一番の成長であったと思います。今後は大学院へ進み、開発学の勉強を深めて国際社会に貢献できる人を目指します。インドネシアで過ごした1年間で感じたこと知ったことを忘れずに、夢に向かって努力を続けたいと思います。

← 大学から40Km程のところにある世界遺産ボルドール寺院

Inside This Issue



交換留学生の声



交換留学Q&A Part1 Part2



Summer Programme

「MAHOROBA&まほろば」開催



キャリアデザイン・ゼミナールB(37)
国際グループワーク・イベント
開催



センター及び国際課の活動
& 来訪者



イギリスで身についた自主性

奥田 紘子 文学部言語文化学科
4回生

留学先：イギリス レスター大学

日本では、「脳ある鷹は爪を隠す」に代表されるように常に謙虚であることが美德だとされています。もちろん、イギリスでも高慢な人は嫌われますが、イギリスでは日本以上に積極性や自主性という軸が人を評価するときに採用されているように感じます。そして、いかにチャンスを自分から取りに行くかということがとても重要です。

大学教育からも徹底的に自主性が求められます。私が通っていたレスター大学では、大学授業の予習テキストは数多くあり、その中から自分で概略を読んで何を読めば良いのかを判断します。最初はとても苦戦しました。読める量も背景知識もネイティブの学生よりも少ない分、余計に時間がかかるからです。しかし、自ら助けを求めさえすれば、乗り切るための方法はあります。わかりにくい内容を後でチューターや先生に相談すると、とても有益な情報や効率の良い勉強法を教えてくださいました。



ローマ時代の温泉の遺跡があるバースにて

それは、留学生だからではなく、現地の学生であっても分からないところがあれば、聞いたほうが絶対に得をする様になっています。逆に助けを待っていても、自分から求めない限り助けは来ません。助けを求めないということは、イコールで、分かっているので助けは不要だと理解されます。

また、良い面で、留学生は特別扱いをされません。レスター大学には留学生が多いこともあり、留学生がサークルに入ることも自由に出来ます。どんな留学生活を送るか、それも自分の手に委ねられています。私は、Enactusという団体に入っていました。社会的にインパクトのあるプロジェクトを学生の手で運営していくものです。私は、ホームレスの就職支援を行なうプロジェクトに属していました。当初、ミーティングでは、会話についていくこと自体にとっても苦労しましたが、後で友人に内容を確認することで補えました。また、積極的な意見が求められる場でもあり、留学生の中から良いアイデアが出て、採用されるというケースもありました。自主性さえあれば、留学生であっても仕事を任せてもらえます。できないかもしれないのであれば大人しくしているべきだという雰囲気は全くありません。私も、やりたいなら挑戦するべきだいう風潮に後押しされ、実際にホームレス支援施設に行き、プレゼンテーションやインタビューを行ないました。ハードルが高い分、プレッシャーもありましたが、不安点は友人に相談できますし、何が不安で、どうすればできるようになるのかを考えることで、次にすべきことが明確になります。自分が思っていた限界よりも、多くのことができるものだと思えました。おそらく、この姿勢は今後社会人としてスタートを切る私にとって、何よりの財産になると思います。

留学と一口に言っても何を求めるかは人それぞれですが、どんな経験を得るにせよ、自分から進んで取り組んでみる姿勢が必要になると思います。そして、その姿勢こそが留学生活にかぎらず、学校生活をより充実したものにしてくれると思います。今、この作文を、留学への興味から読んでいる人がいるとすれば、今がチャンスです。目の前にあるものを取りに行くか、それとも見逃すかはあなた次第です。



現地人として台湾を見る視点はこれから生きる

小高 夏美 文学部言語文化学科 4回生

留学先：台湾 東海大学

3回生の9月から4回生の6月まで、台湾の台中市にある東海大学に留学しました。渡台後しばらく滞在していた高雄を出て、特急電車とバスを乗り継いで3時間半。重いトランクを引きずりながら東海大学へ向かう道すがら、これから1年間のことを考えて気が遠くなりました。しかし、寮に到着した後に留学生サポートの学生たちや寮のルームメイトに快く出迎えてもらったことで、「今日からここが自分の居場所となるんだ」と、不安だった気持ちが徐々に和らいでいきました。

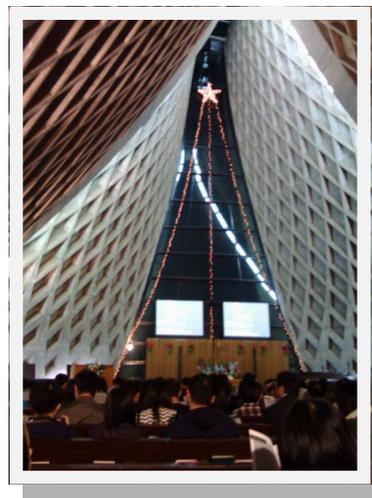
東海大学在学中は、留学生と成績上位者が住む寮に住んでいました。私の寮は男子棟と女子棟に分か

れていて、女子棟の場合は1フロアに4人部屋が10部屋ほどあり、私のルームメイトは3人とも台湾人の学生でした。彼女たちは休日に帰省する際に私も一緒に実家に連れていってくれたり、旧正月など台湾独特の行事のときにお出掛けに誘ってくれたり、私に様々な思い出をくれました。また、特別な体験を共に経験しただけではなく、彼女達には普通の生活でも支えてもらいました。ルームメイトが留学生ではなく現地学生だったため、留学期間中は部屋のメンバーがほとんど変わらず、そのおかげで寮の部屋が一番安心できる自分の居場所となりました。授業のことや人間関係のことで悩んでいても、部屋に帰って彼女たちの顔を見ると、ホッと緊張や不安が溶けていきます。

同じ時期に留学していた友人によってはルームメイトとうまくいかなかった人もいますが、私の場合はルームメイトがいてくれたおかげで留学を乗り切ることができたと思うほど相性が良かったです。

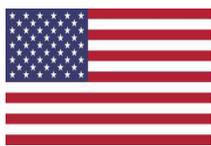
授業に関しては、午前中は中国語学習センターで中国語を勉強し、午後は大学部や大学院の授業（留学生は特別に受講することができた）を受けました。中国語学習センターは少人数制のクラスで、発話する機会も文章を添削してもらい機会も多く、また熱心に指導して下さる先生方が多かったため、私は大学部の授業で発表するプレゼンの原稿まで添削していただきました。センターには大学生以外にも、現地の企業で働いている社会人や台湾の大学に入るために勉強する高校生などさまざまな経歴の学生がいましたが、センターに通う学生たちの間には年齢や国籍などを問わずみんな「中国語を一緒に勉強する仲間」という意識があり、授業外の交流もとてもよい勉強になりました。

東海大学が位置する台中市は、台湾中部に位置し、台北や高雄への交通の便がいいところです。観光や課外授業など、機会があるごとに台北や高雄へ行きました。いろいろな土地へ出かけたり、いろいろなところから来た台湾人の友人と話したりするなかで、気づいたことがあります。それは、日本国内といわず近畿圏内でさえ土地ごとに文化や言葉の差異があるように、台湾も場所ごとに特定のものを指す際の語彙の差や訛りがあり、そして人々の中にある各土地への印象などが異なるということです。これはある程度その土地の住人として生活しなければ意識することのできない違いであり、「観光客」ではなく「現地人」として生活したからこそ得られた感覚だと思います。



クリスマスリサイタル。海大学の路思教堂内にて

留学中は、いままで考えたこともないような問題に遭遇したり、かかわったことのないタイプの人と出会ったり、考えるべきことが日本で暮らしていたときよりも多くあり、一日一日がとても長いように感じていました。ですから、帰国してすでに4か月経ったということがまるで嘘のようです。台湾で食べたものや見たもの、出会った人の声や彼女たちとの会話を昨日のこのように鮮明に思い出します。留学していたときに感じたことや学んだことを自分の中にすべて吸収するには、まだまだ時間がかかりそうです。しかし、留学することの価値というのは、このように時間をかけて少しずつ自分のものとして会得することのできる体験をすることであると私は考えます。ルームメイトやクラスメイトをはじめとする留学中に出会った人々との関係はこれからも続きますし、現地人として台湾を見る視点はまさにこれからの勉強に生かされていきます。留学期間ですべての体験が終了するのではなく留学をきっかけに新しい考え方や人間関係が生まれるということが留学の魅力です。機会があれば、みなさんもぜひ挑戦してみてください。



知らなかった世界に触れた

山田 美奈都 生活環境学部住環境学科 4回生

留学先：アメリカ合衆国 ノースカロライナ大学グリーンズボロ校

私にとって、今までの人生で一番濃かったと自信を持って言える一年間の留学が終わり、帰国してから早半年が経とうとしています。私がこの一年間の留学を通じて本当に良かったと思うことを3点お話しさせていただきます。

タフになりました。留学先では自分がマイノリティーとなる環境の中で生活をする精神力が培われました。私は去年の8月に渡米し、とても国際色豊かな学校で憧れの海外の大学生活が始まりました。しかし、最初の数ヶ月は楽しいこと2割、辛いこと8割でした。人生で初めてのルームメイトを持ったのですが、そのルームメイトが鬱だったり、初めてアジア人として軽蔑のようなものを感じたり、今まで経験したことのないような状況がたくさんありました。そのような状況でいつも相談できる友達や家族がない上、逃げられる場所もなく一人で追い込まれた時期もありました。しかしその辛い時期があったからこそどんな困難でも自分の力で耐え抜けるようになったと思います。



JAPAN CULTURAL FESTにて。友達と

多様性を受け入れられるようになりました。様々な国籍の学生と交わることで、常識が通じない世界に身を投じて身をもって多様性に気づきました。(次のページへつづく)

私自身これまでを振り返ると、今までは自分と同じような境遇、バックグラウンド、学歴を持つ人が周りにも集まっていたような気がします。しかし、留学を通じて、自分と全く異なる価値観、文化、慣習を持つ人々と出会いました。その経験を通じて、自分を相手に適応しながら多様性を認め尊重できるようになりました。



挫けそうになりながらも 中国語を学んで良かった

松本 真依 理学部生物科学科 4回生
留学先：台湾 国立精華大学



桃園燈籠會

わたしはこの留学が3度目の台湾訪問でした。中国語も英語もほとんど話せない状態でしたが、何度か訪れた経験から「なんとかなるだろう」という気持ちで飛行機に乗りました。空港から大学へは清華大学からの迎えのおかげでスムーズに到着し、ボランティアの学生さんの手助けもあり携帯電話も契約できました。しかし、寮のネット環境が予想と異なりLANケーブルやルーターを自分で用意する必要があり、日本への連絡はもとより履修登録も済んでいなかったわたしは初日から途方に迷いました。必死の思いで同じ階に住んでいる現地学生さんに尋ねて回ると、自室のを使わせてくれたりルーターの設定を手伝ってくれたりと皆さんに親切にしてもらいました。

世界中に約500人の友達ことができました。語学力、自己表現力、精神力、適応力などいろいろなものを得ましたが、一番良かったのは世界中に友達ができただけです。半年経った今もほぼ毎日連絡を取っています。また帰国後だけでもアメリカ、イギリス、韓国から日本に友達がいかに来てくれたり、私自身も香港や中国で友達に会ったり世界中で同窓会もできています。

以上3点はどれも、自分が心地よいと感じる慣れ親しんだ環境から抜け出して、新しいことに挑戦したからこそ得られたものだと感じます。これからもこの好奇心を忘れずに残りの学生生活に励みたいと思います。

講義では、中国語がさっぱりわからないので、先生からも「この講義を履修するのは、君の中国語レベルでは難しいと思う」と言われて落ち込んだりもしましたが、クラスメイトに助けてもらいながら中国語で書いたレポートを見た先生が「頑張ったね。ようこそこの講義へ！」と言ってくださり、本当に嬉しかったです。どの講義の先生も、テスト時に辞書の持ち込みを許可してくださったり、特別に日本語のテスト問題用紙を作成してくださったりと、語学能力での問題に配慮してくださいました。また、清華大学は「導師」と呼ばれる先生が生徒の学生生活の面倒を見るシステムがあるのですが、学習面でも生活面でも疑問やトラブルがあれば気軽に相談できるので、とても心強かったです。

語学クラスでは様々な国からの留学生と話す機会があり、各国の文化を深く知る良い機会になりました。中にはパーティーに誘ってくれる人もいて、留学生活の思い出がより楽しいものになりました。

10か月の留学生活で、中国語も少し上達し、台湾、中国、香港そしてマカオ出身の友達と中国語で話せるようになり、恋愛相談を持ちかけられた時は日本の友達と変わらない距離で接してもらえるようになったことをとても嬉しく思いました。英語だけで話していたのでは、ここまで親しくなれなかったのではないかと思うと、挫けそうになりながらも、中国語を学んでよかったと思います。はじめは話す相手もいなくて落ち込んだりしていましたが、帰国までに今でも連絡をくれる友達が多くできました。この出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。

交換留学(派遣) Q & A PART 1

国際交流センターの留学相談にて、“交換留学”について寄せられた質問をいくつか紹介します

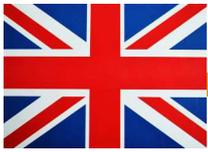
1. 交換留学を考える時期はいつ？

交換留学の準備期間は、毎年度5月頃に本学で“海外留学説明会”を実施。7月～10月が募集期間です。10～11月に書類選考&面接。翌年の6月以降から各協定校へ留学開始(開始時期は協定校による)となります。

2. 費用はどれくらいかかる？

オックスフォード大学以外の学生交流協定大学は授業料は必要なし。奈良女子大学に収めている授業料で留学できます。渡航費・生活費等は個人負担。費用の目安を「ならじょから留学」に掲載しています。

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/abroad/index.html>



異質であることは意外にも心地よい

金池 綾夏 理学部生物科学科 4回生

留学先：イギリス レスター大学

レスターはイギリス中心部に位置する住み心地のよい街です。お世辞にもキラキラした誘惑にあふれるような所ではありません。空港で税関のおじさんにも「なんでレスターなんかで勉強をしているんだい、ハハハ」と笑われてしまうくらいです。そんな小さな街、レスターの認知度が日本でグッと上がったのは、2016年プレミアリーグにおけるサッカーチーム「レスターシティ」の優勝とレスターシティでプレーする岡崎慎司選手の活躍のおかげでしょう。幸運にもレスターが歓喜に沸いた年に留学していた私は、不幸にもサッカーにはあまり興味がなく、結局一度もサッカーを見に行くことなく留学生活を終えました。留学の魅力とは何か。私は語学やカルチャー、グローバルゼーションではない何かをここで伝えたいと思いました。

留学に行くと大抵あなたは異質、になると思います。それはあなたが日本人に囲まれて過ごさない限り、どこに行こうと同じです。その原因は肌の色であったり、言語であったり、バックグラウンドであったりしますが、ここで伝えたいのは異質であることは意外にも心地が良いということです。これまで周囲と「同質」であることを無意識に意識していましたが、留学に行くとその異質要素が新たな自分のアイデンティティとして加わります。加わる、というよりも自分が本来持っている要素を自分が異質になることによって改めて認識する、といった方が正しいのかもしれない。これまで直さなければいけない、と思っていた自分の嫌いな部分も、案外悪くないのかも、受け入れられるようになったのも異質であることの価値を理解できたからだと思います。

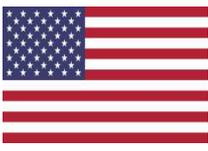


授業中の様子

また、振り返ると留学は期限付きであるがゆえに私を色々な方向に向かわせてくれたと思います。「せっかく留学しているのだから症候群」にかかった私は出来るだけいろいろなことにアンテナを張り興味をもてば「とりあえずやってみる」ことにしました。これまで私は、とりあえず美術館や博物館に行ってみたり、オーケストラを聞きに行ったり、聖書を勉強してみたりもしました。スーパーに行けば見たこともないような食材を買ってみたり、イギリスがナショナルトラスト運動発祥の国と聞けば、ワイルドライフトラストという団体が環境保全のボランティアをしてみたり、といったことが出来たのも、今しかない、という「今何かやっておかなければもったいない精神」的なものが働いたおかげだと思います。自分が特別な経験をしていると思うからこそ、何か面白いものを見逃すまい、と様々なものに対して神経をとがらせ、興味を持ち、自分を豊かにできたのです。帰国後も、この「とりあえずやってみる」という姿勢は大切にしています。

留学はしなければならないものではありません。でも、もし留学したいと考えているのであれば、ぜひ挑戦してほしいと思います。留学を恐れる必要はありません。なぜなら、留学をどのようなものにするか、最高のものにするかは、全て自分次第だからです。

あり、レポートやプレゼン等の課題もたくさん課されました。最初の4か月間は適当にやり過ごしていたのですが、これではいけないと思い真剣に勉強し出したところ、勉強が楽しくなりました。UNCGでは経営学から生物学、はてはダンスやアートまで、さまざまな分野の授業が開講されており、自分の興味に合わせて履修することができます。大学の図書館は24時間開いており、カフェや外で勉強することもでき、勉強場所には困りません。わたしは、留学中に自分の専攻分野以外の分野を勉強し、自分の興味と視野を広げることができてよかったと思っています。(次のページへつづく)



何事も挑戦すること

長谷川 佳奈 生活環境学部生活文化学科 3回生

留学先：アメリカ合衆国 ノースカロライナ大学グリーンズボロ校

わたしはノースカロライナ大学グリーンズボロ校(UNCG)へ10か月間交換留学をさせていただきました。ノースカロライナ州はアメリカ南東部・東海岸側に位置し、アメリカ南部の州に分類されます。歴史が古く、山や海といった自然が豊かで、とてもどかな場所です。州内には大学がたくさんあり、グリーンズボロ市にもUNCGを含めさまざまな大学があります。

わたしの留学生活は楽しいだけではなく、辛いことも、腹が立つことも、不安になることも、たくさんありました。それでもわたしが留学してよかったと思うことは3つあります。

まず、思いっきり勉強できたことです。アメリカの大学生はオンとオフの切り替えがはっきりしており、遊ぶときは遊び、勉強するときはしっかりと勉強していました。実際、授業では次回の予習として数十ページのリーディングが課され、中間試験・期末試験に加え小テストが頻繁に





キャンパスの様子

次に、自分の将来について真剣に考えることができたことです。留学先では、「自分は将来こうなりたい」という目標を持った学生とたくさん出会いました。特に、大学で学んだことが職に直結するアメリカの学生は、より具体的な目標を持っていると感じました。（例えば、社会学を学ぶ学生はソーシャルワーカーになる、といったように。）わたしは自分や自分の将来について留学前

にはあまり深く考えたことがなかったのですが、留学中に真剣に（悶々と）考えました。また、留学先で学び、視野が広がったことで、目標も少し変わったように思います。さらに、少しくらい回り道をしてもいいのだと思うようになりました。留学をしないと将来について真剣に考えられないわけではありませんが、留学先でさまざまな刺激を受け日本での日常から離れた場所でゆっくりと考えられてよかったと思っています。

最後に、世界に友人ができたことです。UNCGの最大の特徴は、さまざまな国や地域から学生が集まっていることだと思います。実際に、UNC系列の大学の中でも最も多様性のある大学とされています。大学の国際化の一環として、世界の文化を紹介するイベントもたくさんあり、大変興味深かったです。わたしも、ほかの日本人留学生のみなさんと日本文化を紹介する会を開催したり、現地の小学校で日本文化を紹介する授業をしたりしました。留学を通じ多様なバックグラウンドをもつ人々と交流し友人となれたことは、もっとも貴重な財産だと思います。今後世界のどこかでまた会いたいなと思います。

国際交流センターの留学相談にて、“交換留学”について寄せられた質問をいくつか紹介します

交換留学(派遣) Q & A PART 2

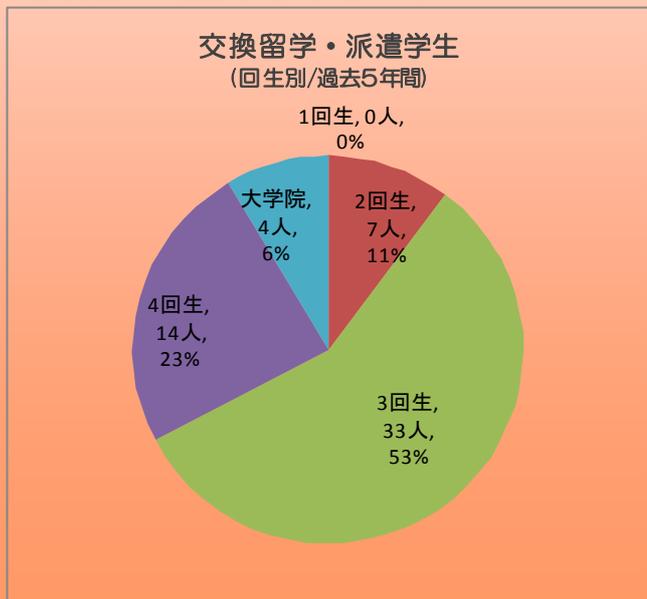
1. 留学しても4年で卒業できる？

交換留学の期間は本学における在学期間として認められるため、留年せず留学ができる制度として計画されています。但し留学先の学期の開始時期や本人の取得単位にもよるので学務課の各所属学部・大学院係に相談しましょう。

2. 留学先で単位が取れる？

留学先で単位は取得できます。但し本人の語学力によります。

3. 何回生で留学する人が多い？



4. 語学力はどのくらい必要？

交換留学は専門の勉強・研究を目的とする学生が対象です。各協定校が必要と定める語学能力はそれぞれ異なります。

【目安】

英語 TOEFL (iBT) 80~90点以上, IELTS 6.0以上
 中国語 学部 HSK (漢語水平考試) 5-6級程度
 中国語 大学院 HSK (漢語水平考試) 7-8級程度
 韓国語 韓国語能力試験6級程度

5. 主な留学先・協定校(過去5年間)

レスター大学	11人
ノースカロライナ大学グリーンズボロ校	8人
パリ・ディドロ大学	7人
トリアー大学	6人
東海大学	5人
南京大学	4人
梨花女子大学	4人
グラーツ大学	4人
ルーヴェン・カトリック大学	3人
国立清華大学	2人
大連理工大学	1人
リンカーン大学	1人
武漢大学	1人
ガジャマダ大学	1人
合計	58人

Summer プログラム 「MAHOROBA & まほろば」 開催

海外協定大学の学生を迎え、7/10~20「MAHOROBA(英語)」、7/31~8/10「まほろば(日本語)」のサマープログラムを開催しました。

● MAHOROBA(英語)

全プログラム英語で実施。本年度は“Tourism”をテーマに開催され、講義、法隆寺へのフィールド・トリップ等を通して国際都市奈良をどのように促進できるか学びました。参加協定大学：ルーヴェン・カトリック大学、梨花女子大学、東海大学、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学 合計4校11名。



英語プログラム参加メンバー



発表の様子

● まほろば(日本語)

奈良を切り口に、「東大寺論」、「奈良について」、「奈良の映像」など、奈良に対する理解を深めました。

参加協定大学：トリアー大学、貿易大学、ハノイ大学 合計3校6名。

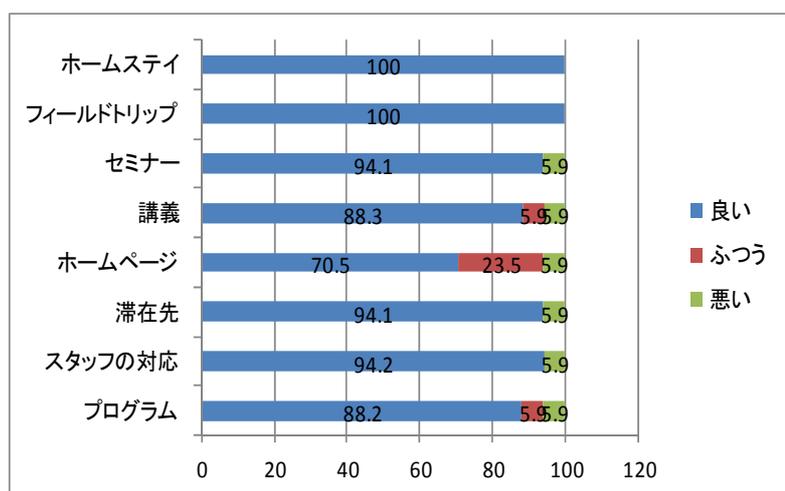


日本語プログラム参加メンバー



書道の様子

● サマープログラム満足度グラフ



● 参加者の声

- Please keep doing this in the future, it was so much fun.
- Homestay experience is way so great! Please maintain it next year.
- I loved the programme a lot. It was a great combination of lectures, field trip and free time. Thank you!
- Thanks to every teachers and Japanese students who take part in this programme, you make this successful and brilliant!

国際グループワークのイベントが開催されました！

国際グループワークは、留学生と日本人学生がイベント企画をとおしてお互いのこと、相手の国の事などを知る国際交流のクラスです。

Fruit Meeting & 七夕京都国際ツアー

7/1(金)にN201教室で17時から、留学生と日本人学生が仲良くなる機会を設けようと、Fruit Meetingというイベントを企画しました。みんなでフルーツバスケットを通して交流するというもので、参加者12人は、最初の自己紹介でこそ緊張がみられましたが、いざ始めるとイスを2人で取り合うほど白熱しました。最後は、みんなで夕食とチーム名に合わせたフルーツを食べて「女子大」らしいイベントになりました。翌日、7/2(土)には、このイベント参加者は、七夕京都国際ツアー行きました。
近藤香月(文学部人文社会学科4回生)



↑参加メンバー



←イベントの様子

ひんやりSummer!

8/5(金)17時から国際交流プラザにて「ひんやりSummer」を行いました。学生達は、ペットボトルを駆使し素麺を流す器具を皆で作りながら、仲良く交流しました。流し素麺を食した後に、元興寺で行われた、ならまちカルチャー・真夏の怪談というイベントに参加し、ひんやり真夏の夜を楽しみました。



流し素麺の様子



センター及び国際課の活動

- 2016/7/1・2 キャリアデザインゼミナールB(37)
Fruit Meeting & 七夕京都国際ツアー
- 2016/7/5 グローバル女性人材養成プログラム(中国)情報交換会
- 2016/7/6 グローバル女性人材養成プログラム
(中国第3回 & ベトナム第2回)渡航説明会
- 2016/7/10~20 サマープログラム「MAHORоба(英語)」
- 2016/7/13 グローバル女性人材養成プログラム(中国)第4回
渡航説明会
- 2016/7/15・20 グローバル女性人材養成プログラム(ニュージーランド)
募集説明会
- 2016/7/20 留学体験報告会
- 2016/7/31~8/10 サマープログラム「まほろば(日本語)」
- 2016/8/3 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)最終説明会
- 2016/8/5 グローバル女性人材養成プログラム(中国)最終説明会
- 2016/8/5 キャリアデザインゼミナールB(37)・ひんやりSummer
- 2016/8/23 日研生修了式
- 2016/9/26・29 TOEFL対策講座
- 2016/9/30 TOEFL-ITP受験実施

編集後記: 国際交流センター主催のサマープログラム(英語 & 日本語)が無事終わりました。多くの海外留学生が奈良女子大学に興味を持ち、交換留学生として再度本学に来て貰える様に教職員一同奮闘しています。次号は南京大学での研修を特集します。(編集者:Yoko Sen)

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.44 2016年9月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html